

## 河合清美先生「保育士として働くにあたっての保育所保育指針」① 学生感想(抜粋)

2021.12.10

今日は久しぶりの河合先生にお会いして、学内実習のことを思い出しました。河合先生の講義を聞いていると、保育士という職業のすばらしさをとても感じるとともに、河合先生自身が誇りをもって保育士をしているのだと毎回思います。また、グループで行ったお手玉を用いて行ったゲームから山手線ゲームにいたる流れが、保育現場でも活かせると思いました。遊びを行った後、その遊びを振り返り、次回工夫する点を考える、この時間が、保育をよりよく展開できると感じました。ありがとうございました。

2月の学内実習で初めてお話をお聞きした時から、河合先生の講義をぜひもう一度受けたいと思っていました。90分の講義時間があっという間に感じるほどお話を夢中になることができたと同時に、「子どもの主体性」を引き出していく関わりの難しさや、それによって育まれる子どもの姿の大切さを改めて感じることができました。

今回、河合先生に授業をしていただき、保育の素晴らしさ、人間だけが育める人間力の重要さが改めてわかりました。その魅力を伝え、子どもたちのために保育をするために、保育者として日本の教育背景や『主体的・対話的で深い学び』を考えながら日々現場で実践したいです。また、河合先生の園(2歳児クラス)で保育者の方が子どもたちの様子を見て玩具を作り、子どもたちが喜んで遊んでいたというエピソードが印象に残りました。保育者が子どものやりたいことの思いをくみ取り、遊びを展開したり可能性を広げたりしていくことが大切だと思いました。皆で遊んだお手玉では、失敗しても成功しても皆で楽しむことができ、1つの簡単な遊びから様々な経験ができることがわかりました。

お手玉遊びでは、チームで協力し合って、回数を重ねるごとに自然と曲を口ずさみリズムに乗っている感覚がとても楽しかったです。子どもが楽しいと感じる要素を体験できて良かったです。ありがとうございました。

今回の授業の中で、これからの教育で育んでいくのは人間力であるという話が心に留まりました。

私が実習をさせていただいた園では、何人かの子どもが自由遊びで製作したものをみんなの前で発表する時間があり、保育者に聞くと、話すことや聞くことなどを大切にしているという話でした。河合先生の話聞いて、頭で考えたことを作って発表(表現)することが人間力につながると知ることができました。



河合先生が作成された保育所保育指針のファイルについて、今回また改めて説明していただき、表紙に込められた意味の素晴らしさや一目で見たときにすぐに理解したり見つけたりできるようにした工夫など、全てが詰まっっていて、このファイルをいただけたことが本当に凄いことであることを改めて感じました。

講義の最後に「遊びをしてどう感じたか」言葉を出し、出てきた言葉を5領域に当てはめる、ということを行った際、「一つの遊びだけでこんなにも多くの気付きや感じ方があるのだ」と驚きました。意見交換の大切さを感じるだけでなく、河合先生の仰っていた「5領域に合わせた遊びを用意するのではなく、遊びの中に5領域を見出す」ということの重要性を強く感じました。

また、遊びを設定する上で、子どもを観察し、子どもから気付きを得て、子どもからの興味に合わせた環境を設定することで子どもの主体性を広げ、そこで設定した遊びやそれまでの子どもの様子から「この遊びをしたらどう感じるだろうか」「何が身につくだろうか」と考え、今回のように実際に遊び、検討し、出てきた言葉や感情を5領域と照らし合わせながら日案や週案、月案等のねらいを考えていくと、自然とねらいを書くことができると感じました。

保育者保育指針はとても難しいものだと思っていましたが、「保育士のお助けマン」というお話を聞いて、「保育所保育指針があるから4月からも大丈夫」と気持ちが軽くなりました。



お手玉を用いた遊びをして、良かったと思ったことや感想等の自分の意見を言う場面がありましたが、その際に「周りの人とは違うことを言おう」と意識したことで、様々な視点からその遊びを考えることができました。子ども目線で考えたり、保育者目線で考えたり、または違う観点から一つの遊びについて考え、分析することで、簡単にできる遊びが数十倍楽しくなるように思いました。意見を出し合うという経験から、遊びについて考えることの大切さを学べて良かったと感じました。

自分の良い所を制限時間内で20個書いたり、「あんたがたどこさ」を実際に友達とやってみたり、河合先生のお話と一緒に実践の中で楽しく学びを深めることができました。私たちの意見に対して、「良いアイデアだね」「想像したら私も楽しくなってきた」等と前向きな言葉を掛けてくださる河合先生の明るい姿に、私も河合先生のように保育を思いっきり楽しめる保育者になりたいと思いました。鏡の前でクレヨンを化粧品のようにして遊んでいる子どもの姿を見て、現場の保育士が100円ショップの道具を使って化粧品道具のようなものを作って保育が広がったというお話がとても印象的でした。貴重なお話をしてくださりありがとうございました。

これからの教育で育てていくべき力は、人間力であることを学びました。保育所保育指針に記載されている5領域に基づく、育みたい力を達成するために目標を立てることも大切ですが、これからの時代はSDGsの17の目標の中にもあるように、多様性が求められる時代となっていくと思います。そのため、従来の教育である「みんな一緒」、「正解と不正解」ではなく、「自分なりに課題を見つけて、自分なりに工夫する」ことを、子どもたちが主体的にできるような保育をしていくことが大切であるということがわかりました。

就職活動の時など、長所を考える機会がありますが、いざ自分のいいところを20個書き出すとなると、数個思いついた後に「自分がと思っている部分が他人から見たらそうでないのかもしれない」、「これはいいところと言っていいのだろうか」などいろいろ考えてしまい手が止まってしまいました。しかし、他の人の意見を聞いてみると小さなことでも書き込んでいる人がいて、ポジティブに考えていけるところが良いと思いました。

今回の講義を通してアクティブラーニングについて理解を深めることができました。子ども主体の保育を行うことで、保育士にとっても子どもの考えが学びにつながるがあると思います。また、大人が用意した遊びではないため子どもたちも心から遊びを楽しむことができ、遊びを通して様々なことを学んでいくのだと思いました。

今回の河合先生の授業を受けて、自分のいいところを20個書く課題では5つしか書けず、自己肯定感が低いことに気づきました。その背景には、「できないとダメ」「間違えると恥ずかしい」など必ず正しい答えを出さないといけないという風に教えられてきたからだと知ることができました。私が保育者になった時には、「子どもたちに間違っても大丈夫だよ」と思えるような関わりをしていきたいと思いました。子どものありのままを受け止め、否定的な言葉掛けをしないようにしていきたいと思いました。

子どもが言ったことややったことを受け止めることが子どもの主体性・自信・自己肯定感を育むのだと改めて感じました。子どもにとって保育者は指示してくる存在、顔色を窺わなくてはならない存在ではあってはいけないと思います。子どもが伸び伸びと、園でならやりたいことをやりたいと、やりたくないことはやりたくないと思えるような関わりを常に心がけて接したいです。保育所保育指針は就職活動の際に参考にすることがあり、これから更に使っていきたいです。

今回の授業の中で、河合先生が仰っていた「これからの世代をつくっていく子どもたちの社会を創り出すためには保育士の力が大切であること、保育指針は身近なところにある」という言葉がとても印象に残りました。

子どもたちが遊びを通して自分を表現したり、友だちと楽しい生活を送ることができるように、様々な素材を用意したり環境をつくるのが大切であると学びました。私も先輩保育者や様々な人から学びながら、子どもたちのことを考えることができる保育者になりたいと思いました。

保育所保育指針が改定されて国が保育所を教育機関として位置づけられたため、保育士は専門職として学び続けなければならないことがわかりました。昔、保育所は遊びの場で、幼稚園は教育の場というイメージがありましたが、保育所が教育機関となったため、幼稚園と保育所の違いはなくなってきていると思いました。

自分の良いところを20個書くワークでは良いところが浮かんでも「ここは他の人もできてるし当たり前なことだろう。」と思ってしまい、あまり書くことができませんでした。自己肯定感が低い理由は受動的な教育を受けてきたからだというお話を聞いて「確かにその通りだ」と思いました。私は小中学校の時、失敗したりせず、模範生徒でいなければならないと思っていました。そのため、できてすごいことでも「当たり前」と思っていました。河合先生も話されていましたが、自己肯定感を高めるためにはこのような教育ではなく、子どもが主体的に考えることができる教育ではないと思います。失敗したから



ダメなのではなく、失敗したから次どうすればいいかを考えられるような保育をしていきたいと思いました。

「あんたがたどこさ」でお手玉を回す遊びでは、お手玉の手触りや色を目でも楽しみながら、速度を変えたり、回す向きを変えたりと体でも遊びました。みんなで協力して遊ぶこと、落としても笑顔だったことが楽しかったです。また、河合先生の「失敗しても大丈夫だよ」という言葉で安心して遊ぶことができました。

指導案を考える時は「どうしたら指針を達成できるだろう。」と考えますが、今日やったお手玉のように難しく考えなくても遊びの中で指針を達成していることがわかりました。保育者になって指導案を考える時は難しく考えず、子どもが楽しめるような遊びを考えたいです。保育で悩むこともあると思いますが、自分の芯をしっかりと持ち、ぶれないようにしていきたいと思います。

これからAIの時代になっていくため、正解率ではなく自分らしさや、アイデンティティを育むことができるような保育が大切であるというお話を聞き、私もその通りだと感じました。日本の教育だと、決まり事には従順に、少しでも周りや違うことをしていると不思議な目で見られてしまうことが多いと感じることが多いです。そのような環境で育ってしまうと、やはり自分の考えを持つことやそれを発信していくことが難しいと思います。そのため、子どもとかわる時に、その子どものやりたいことや、どのような考えをもって行動しているのかをしっかりと理解して子どもの意見を尊重し、やりたいことができる環境を整えることが大切だと思いました。



本日の授業では、河合先生の作成された「毎日の保育に役立つ File」の利便性を改めて感じました。特に、「養護と教育の要素を、赤土と黒土を混ぜる様に保育に入れ込み、日々の保育の中で環境構成や活動として楽しさの種をまくことで子どもから興味関心や気付きの芽が生える」という説明は、何度聞いても保育の基礎に立ち返ることができます。非認知能力を育てることの重要性については理解できていても、どのように保育していけばいいのか迷ったり、困ったりした時には「毎日の保育に役立つ File」を活用し、保育について考える時間を作ろうと思います。